

スポンサーシンポジウム 1

12月9日(木) 第3会場(交流ホール) 14:50~16:50 同時通訳

HAART : Once Daily の臨床的意義

■座長：岩本愛吉(東京大学医科学研究所先端医療研究センター感染症研究分野教授)
薬原 健(独立行政法人国立病院機構 宇多野病院 副薬剤科長)

■趣 旨

今年1月にアタザナビル、4月にテノホビルの国内販売が開始され、いよいよ本邦においても Once Daily (1日1回投与) の HAART が本格的に可能となったと言える。更にいくつかの薬剤が Once Daily で投与可能になると期待され、今後の HAART は Once Daily が標準的となる可能性が高い。そこで、本シンポジウムでは Once Daily の薬剤に求められる特性、注意点ならびに個々の薬剤や主要な組み合わせについて国内外の成績を紹介する。

さらに、2つの講演終了後に座長、シンポジスト4名の先生方によるパネルディスカッションを開催する。

■シンポジスト

Joel E. Gallant, MD, MPH

(Associate Professor of Medicine & Epidemiology

Johns Hopkins University School of Medicine Baltimore, Maryland)

瀧永博之(国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター)

■共 催：鳥居薬品(株)

スポンサーシンポジウム 2

12月10日（金）第2会場（会議ホール 風）18:50～20:20

見おとし、手おくれ、時間ぎれ？

■企画・制作メンバー：山元泰之（東京医科大学）
今村顕史（都立駒込病院）
堀 成美（都立駒込病院）

■抄 録

HIV感染症を疑うべきなのに見落としていませんか？

対応が遅れてしまったりしていませんか？

初診にスポットをあてて、現在のHIV診療の問題、今後の不安について考えていこうと思います。

．．．．時間切れにならないために。

過激な題となりましたが、決して冗談ではありません。

HIV抗体検査をするきっかけ、陽性告知、受診する医療機関、医師やスタッフとの関係、社会制度、そして本人をとりまく環境。今後のさらなる感染者増加を考えれば、将来のHIV診療には多くの問題があります。

「今さら考えても遅い」というような事にならないため、今回はまず初診に関連した問題から話し合っていきましょう。

なお今回は、初診時に便利な資料を作成し、当日の参加者へ配布できるように準備をすすめています。いっしょに参加して、みんなで今後の医療について考えましょう。

■共 催：ブリストルマイヤーズ（株）